

## 平成23年度 教育委員会 第9回定例会 議案

1 日 時 平成23年8月3日（水） 午後2時30分

2 場 所 教育委員会議室

3 日 程

(1) 開 会

(2) 議 事

(3) 報告事項

(4) 閉 会

**第9回定例会 報告事項**

番号	項 目	Page
1	市町教育委員会訪問（中間報告）	1
2	平成24年度教員採用第1次選考試験の結果	4
3	自然生活体験事業の開催	5
4	<非>平成22年度児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査結果（速報値）	非

## 市町教育委員会訪問（中間報告）

(教育政策課)

静岡県教育振興基本計画「『有徳の人』づくりアクションプラン」「静岡県教職員研修指針」及び「学校運営改善事例集」の周知を図るとともに、各市町における活用上の課題等について聴取することを目的として実施している市町教育委員会訪問について、中間報告をする。

### 1 現在の状況

県内35全市町を12のグループに分け、5月24日から訪問を開始し、7月22日現在で9グループ（22市町）の教育委員会を訪問した。

訪問に当たっては事前アンケートを実施し、その結果を踏まえたヒヤリングを、各市町教育委員会の学校教育担当課長及び社会教育担当課長との面談により実施している。

### 2 これまでの訪問結果の概要

- (1) 静岡県教育振興基本計画「『有徳の人』づくりアクションプラン」に関する  
こと
  - ア 「『有徳の人』づくりアクションプラン」に示した施策の方向（50項目）の内、各市町が早期・中期・長期的な課題として挙げたものには、地域の特性や市町の規模に即しているという特徴が見られる。
  - イ 各市町では、アクションプランを踏まえた上で独自の事業を展開したり、施策展開に軽重を付けたりしていることが伺える。
- (2) 教職員の研修、総合教育センター、教育事務所に関すること
  - ア 初任者研修や総合教育センター（東部支援班を含む）による学校訪問については、各市町の実態に応じた要望や課題がある。
  - イ 県教委の組織再編に伴って、両教育事務所の機能が縮小されたことによる課題を整理する必要がある。
- (3) 学校運営改善事例集に関すること
  - ア 事例集の活用状況についての把握は、十分にできていない。
  - イ 「労働時間の適正な把握」を意識し、独自の取組を進めている市町教育委員会もある。
- (4) その他
  - ア 特別支援教育の推進が課題となっている。
  - イ 県教委の調査・照会に伴う事務処理の負担軽減が課題である。

### 3 今後の対応

8月下旬を目途として、全市町教育委員会を訪問する予定である。全市町のヒヤリング後に、各市町の実態や要望を整理し、県教委としての具体的な対応について検討を進める。（研修体制の見直しや研修の分散化、調査・照会の精選 等）

市町教育委員会訪問におけるヒヤリング項目一覧

分類	No.	ヒヤリング項目	ヒヤリングの具体的な内容
静岡県教育振興基本計画「『有徳の人づくり』アクションプラン」に関する質問	1	各教育委員会が早期または中期に取り組むべき課題	○本年度、特に重点をおいている施策とその理由
	2	家庭の教育力向上に向けた取組	○取組(施策)の概要 ○取組(施策)成果や課題
	3	通学合宿、学校支援地域本部	○設置箇所数 ○取組の様子と成果・課題
	4	県教育委員会が取り組むべき施策や課題等	○アクションプランの進行管理に対する市町教委の意見
静岡県教育事務所の機能縮小に関する質問	1	初任者研修の見直	○見直しの視点 ○2年目以降に分散しても良いと思う研修
	2	授業力向上実践研修	○本事業の評価や感想 ○事業終了に伴う課題
	3	初任研から5年研をつなぐ研修 5年研から10年研をつなぐ研修	○左記研修の該当年度以外の年度で期待される研修
	4	経験豊かな教職員に対する研修	○研修のニーズと内容
	5	実施機関が異なる様々な研修の重複	○負担軽減措置の実施の有無 ○削除や振替を実施した研修の具体
	6	事務所の機能縮小	○市町教育委員会への影響
	7	総合教育センターの学校訪問	○回数と時期 ○訪問による成果 ○訪問方法の変更に伴う課題
	8	事務所の学校訪問	○回数と時期 ○訪問による成果
学事運営の改善に関する質問	1	事例集の活用状況	○市町教育委員会による把握の有無 ○「定時退勤日の設定」「労働時間の適切な把握」の達成状況
	2	参考となる取組	○市町教育委員会や、所管する学校が実施している取組
その他の内容に関する質問	1	特別支援教育	○特別な支援を要する児童生徒の状況 ○特別支援教育推進上の課題
	2	社会教育委員会	○委員数、開催数 ○社会教育委員会の取組
	3	市町教育委員会の指導主事	○指導主事の有無 (配置されている場合、職種、人数) ○指導主事の必要性
	4	その他	○その他、県教委への要望等

市町教育委員会訪問における要望等一覧

項目	要望や意見の内容	類似回答
35人学級	35人学級の実施に伴い、指導方法工夫改善の加配等が引き上げられ、級外職員が減少してしまった。	
	35人学級の恩恵を受けられず、指導方法工夫改善加配が引き上げられた。	
加配措置	学校再編に伴う加配措置の延長を要望する。	2
	計画訪問がなくなることへの不安、学校の要請に応じて欲しい。	
業務の兼務	教頭と県の事務職の兼務に対する負担軽減(児童生徒と触れ合う時間がない)。	
職員の採用	地域(地元)出身者を採用してもらいたい。	
指導主事配置	センターの指導主事のような人を配置してもらえないか。	
財政措置	財政支援が必要である。	4
	ランク2(Is値が0.7以上1.0未満)まで補助対象の拡大をお願いしたい。	2
幼児教育	幼稚園と保育所で教育レベルに差が生じないように努めて欲しい。	2
	幼保一元化や認定子ども園の国の動きが見えてこない。	
特別支援教育	県には支援員の加配・育成をお願いしたい。	3
	特別支援学級の定数の改善を求めたい。	3
	年度途中で特別支援学級に籍を移すことについて、状況に応じて弾力的な対応をお願いしたい。	3
	沼津特別支援学校が遠い。近いところに分教室がほしい。	
県教委のスタンス	県として、各市町教委に差を生まないような助言や施策をお願いしたい。	2
	研修の開催通知の重複をなくしてもらいたい。(学校安全管理関係、人権関係)	
	研修欠席の連絡を学校人事課とセンターに別々にすることをなくしてほしい。	
調査・照会	調査については、数が多く、類似のものも多い。	7
	調査依頼については、提出までに1ヶ月程度の猶予がほしい(依頼日の2日後に提出はやめてほしい)	
学校運営改善	県教委が何をしたかを市町教委や学校に示す必要がある。	
	多忙化解消として、精神論での解決は無理である。	
法的課題	学校が避難地になっており、県費教職員が学校に泊まって対応しても特別勤務にはならない。市の職員は振り替えがある。法的な整備が不十分である。	
地教委の独自性の担保	広域連携を視野に入れた、市町教育委員会の連合は可能か。	

平成24年度教員採用第 1 次選考試験の結果

(学校人事課)

(要旨)

平成23年 7 月 2 日 (土) 3 日 (日) に実施した、平成24年度教員採用第 1 次選考試験について、厳正な選考作業を進め、下記のとおりの結果となった。

(概要)

1 合格者数等について

高等学校教員						特別支援学校教員						小・中学校教員							
教科	志願者数	欠席者数	受験者数	合格者数	倍率	校種教科	志願者数	欠席者数	受験者数	合格者数	倍率	校種教科	志願者数 (小・中共通)	欠席者数 (小・中共通)	受験者数 (小・中共通)	合格者数 (小・中共通)	倍率		
国語	118	9	109	36	3.0	小学部	155	7	148	87	1.7	小学校	768	26	742	402	1.8		
地歴	175	18	157	29	5.4	中 学 部	国語	14	0	14	11	1.3	中 学 校	国語	100 <18>	16 <1>	84 <17>	59 <15>	1.4
公民	61	7	54	5	10.8		社会	60	2	58	8	7.3		社会	154 <21>	12 <1>	142 <20>	36 <7>	3.9
数学	134	12	122	44	2.8		数学	6	0	6	4	1.5		数学	106 <20>	2 <0>	104 <20>	54 <12>	1.9
理科	153	19	134	41	3.3		理科	14	0	14	5	2.8		理科	90 <21>	9 <2>	81 <19>	52 <15>	1.6
保体	225	24	201	29	6.9		音楽	30	0	30	14	2.1		音楽	60 <5>	4 <0>	56 <5>	10 <0>	5.6
家庭	45	1	44	6	7.3		美術	14	0	14	8	1.8		美術	31 <2>	3 <0>	28 <2>	6 <1>	4.7
農業	29	2	27	3	9.0		保体	106	5	101	21	4.8		保体	129 <12>	10 <2>	119 <10>	41 <8>	2.9
工業	81	3	78	22	3.5		技術	4	1	3	1	3.0		技術	13 <3>	3 <0>	10 <3>	5 <2>	2.0
商業	79	7	72	10	7.2		家庭	7	1	6	5	1.2		家庭	15 <2>	3 <0>	12 <2>	4 <1>	3.0
水産	9	0	9	4	2.3		英語	26	0	26	7	3.7		英語	146 <12>	17 <1>	129 <11>	32 <5>	4.0
英語	138	15	123	41	3.0		中計	281	9	272	84	3.2		中計	844 <116>	79 <7>	765 <109>	299 <66>	2.6
芸術	53	7	46	10	4.6		小・中計	436	16	420	171	2.5		小中合計	1,612	105	1,507	701	2.1
情報	48	11	37	3	12.3		理療	/	/	/	/	/							
福祉	8	1	7	3	2.3	※今年度は理療の募集はなし						養護 教諭	167	9	158	36	4.4		
高合計	1,356	136	1,220	286	5.6	特支合計	436	16	420	171	2.5	小中養護 合計	1,779	114	1,665	736	2.3		

※ (倍率) = (受験者数) ÷ (合格者数)

2 平成24年度教員採用選考試験の結果発表について

- (1) 第 1 次選考試験結果 8 月 1 日 (月) 本人宛郵送。正午に、県庁本館 2 階に合格者の受験番号を掲示し、教育委員会ホームページでも公開。
- (2) 第 2 次選考試験結果 10 月 3 日 (月) の予定

## 自然生活体験事業の開催

(社会教育課)

### 1 趣旨

今日、物質的な豊かさ、便利さの中で、青少年の心の豊かさやたくましさが失われつつある。

県立青少年教育施設（4所）では、各施設の特徴を生かした体験活動を通して、子どもたちの自立心や忍耐力、協調性を養うとともに、生命や自然への畏敬の念をもって、自然や周囲の人たちと調和して生きていくことの大切さを感じ取れる青少年の育成に努めている。

### 2 開催日程及び参加予定人数

項目	朝霧 野外活動センター	三ヶ日 青年の家	観音山 少年自然の家	焼津 青少年の家
体験名称	「朝霧高原サマーキャンプ」	「浜名湖いきいき発見の里」	「冒険王国 in 観音山」	「チャレンジスクール 2011 夏」
対象	小学 5 年～ 中学 3 年生	小学 5 年～ 中学 1 年生	小学 5 年～ 6 年生	小学 5 年～ 中学 1 年生
募集人員	42 名	50 名	80 名	80 名
応募人数	73 名	30 名	110 名	80 名
<b>参加予定人数</b>	<b>48 名</b>	<b>30 名</b>	<b>80 名</b>	<b>80 名</b>
活動内容	テント泊、かまど炊事、富士山原生林ハイキング など	海の環境学習、昆虫・海洋生物採取 など	テント泊、野外炊事、沢登り、いかだ冒険など	海洋活動、八丁櫓・実習船「焼津」乗船 など
開催日程	8/6～14 (8泊9日)	8/9～14 (5泊6日)	8/7～12 (5泊6日)	8/6～11 (5泊6日)

### 3 スタッフ

青少年健全育成に寄与する人材の育成と活用を図るために実施している「**野外教育スタッフ養成事業**」の受講生が、各所主催の「自然生活体験事業」において、参加する小中学生のリーダーとなって、安全面に気を配りながら活動し、子どもたちと触れ合いながら指導者としてのノウハウを実地で学んでいく。

養成は青少年の体験活動の場である 4 つの県立青少年教育施設で行い、受講生は野外教育指導者として必要となる知識・技能を習得させる研修会に参加している。

野外教育スタッフの対象者・・・一般成人・大学生・専門学校生など

※修了生は、静岡県青少年初級指導者として認定される。

	朝霧野外活動センター	三ヶ日青年の家	観音山少年自然の家	焼津青少年の家	合計
参加者	15 名	27 名	30 名	26 名	98 名
事前研修 (回数・研修内容)	2 回※ 野外活動実習、 活動の事前踏査	3 回 心肺蘇生法、野外活 動における危機管理	2 回 いかだ冒険救助訓 練、活動の事前踏査	2 回 応急手当救命実 習、海洋活動実習	

※朝霧野外活動センターは、前年度までの修了生がスタッフとして子どもたちの活動を支援する。

### 4 その他

7月のプレキャンプ（事前説明会）で、子どもたちとスタッフの交流及び保護者への説明を行った。